

INTERVIEW

インタビュー

vol.1

取材日 2020年8月

プロサッカー選手から 経営者へ

山越 享太郎 (29)

YAMAKOSHI KYOTARO

栃木県日光市出身
元プロサッカー選手



プロサッカー選手から経営者に転身 地元貢献しながら、いずれは県内プロクラブを 支援できる会社に



今回、インタビューに協力していただいた山越さんは、栃木県日光市にある今市中学校を卒業後、東京ヴェルディユースを経て、筑波大学に進学しました。在学中に特別指定選手として川崎フロンターレに入団し、その後正式にプロ契約。4シーズンを川崎フロンターレで過ごした後、栃木SCへ移籍。2016シーズン終了後に現役を引退されました。引退後は宅地建物取引士（宅建）を取得し、実務経験を経て2020年に起業されています。

ある人との出会いが新たな目標を 見つけるきっかけとなった

25歳で現役を引退したのですが、現役中にセカンドキャリアについて準備していたわけではありません。まずはサッカー界以外の人にたくさん会おう、と決め、現役中に得た人脈をうまく利用してたくさんの人に会いました。その中で出会った方に「20代は30代の自分を想像して、30代は40代の自分を想像して、その自分になるために今何をすべきかを目標として設定することが大切」という事を言われ、ハッとしました。その時の私は30代の自分が全く想像できなかつたんです。





色々な仕事を経験し、 宅地建物取引士を取得する道へ

当時、東京の池袋に住んでいたのですが、今後の自分の人生設計を考えながら、様々なアルバイトを経験して生活していました。仕事によって働く人のキャラクターも考え方も違うし、本当に色々な刺激を得ることができたと思っています。同時に今までサッカーに集中していたので、これから先の人生のために勉強もすべきだよな。と考えるようになりました。その時に頭に浮かんだのが、子供の頃に父が宅建の勉強をしていて「将来、不動産会社をやりたい」と言っていた事でした。そんなことをきっかけに、日中は宅建を取得するために専門学校に通うようになりました。

宅建を取得し、地元で就職。そして独立へ

引退するまではサッカーばかりしてきて勉強しなかった分、宅建の勉強が想像以上に楽しくて頭にもすんなり入ってくれました。(笑) それもあって無事に宅建を取得することができ、2018年に日光市に戻ることになりました。そこで不動産会社にお世話になり実務経験を積ませてもらいました。今までは若い方と話すことが多かったのですが、仕事柄、年配の方とも話す機会が増え、社会人としてのマナーや立ち振る舞いを教わりました。若いと信用してもらおう事が難しい事や、人に自分の考えや思いを伝えることの難しさも教えてもらいました。そして、今年(2020年)に現在の会社を立ち上げました。

自分も会社も成長して地元とアスリートの力に

会社を立ち上げたばかりで、今すぐに何かができるというわけではないのですが、自分自身も会社も成長していて、日光市を盛り上げていきたいことはもちろんですし、全国の現役アスリートに不動産のプロとして資産に関するアドバイスができたり、県内プロクラブを支援できるようになりたいと思っています。そのために、日々の仕事でお客様からの信頼を得られるよう、真摯に頑張っていきたいと思っています。

MESSAGE

現役アスリートへのメッセージ

まずは、現役生活を後悔の無いように精一杯楽しんで下さい。
引退した後、何かあった時に助けてくれるのは「人」だと思います。
私もたくさんの人に助けてもらいました。
ぜひ、現役中にできるだけ多くの人と接点を持ち、話を聞く機会を作って下さい。
必ず、自分を成長させてくれるはずですよ。
お互い頑張っていきましょう。

ATHLETE SECOND CAREER INTERVIEW vol.1

「プロサッカー選手から経営者へ」

山越 享太郎 (29)
YAMAKOSHI KYOTARO

栃木県日光市出身
元プロサッカー選手



セカンドキャリアに関する相談(無料)
をご希望の方はこちらから

